（様式１）

教　育　研　究　業　績　書

2023年5月1日

氏　名　　小松　妙子

研　究　分　野	学　　位
看護学	看護学修士・千葉大学大学院看護学研究科

研　究　内　容　の　キ　ー　ワ　ー　ド
在宅看護学　看護教育学　　訪問看護

教　育　上　の　能　力　に　関　す　る　事　項		
事　　　　項	年　月　日	概　　　　要
1.教育方法の実践		
1)臨床看護師との協働による看護技術教育	2010年4月～ 2016年3月	臨床看護師参加型授業により身体侵襲の高い看護技術の修得度向上を目指した。
2)自己学修支援強化による看護技術教育	2013年4月～ 2016年3月	ｅ-Learningと対面教育の組み合わせたﾌﾞﾚﾝﾃﾞｨｯﾄﾞ･ﾗｰﾆﾝｸを導入・活用した。
3)遠隔授業に対応した臨地実習指導	2020年4月～ 2021年9月	臨地に近い実習体験から実習目標を達成できるようオリジナル教材を多用した。
2.作成した教科書、教材		
1)論理的思考を支援するアセスメントガイド	2010年4月～10月	看護理論に即しており、学内演習から実習まで活用可能なガイドを作成した。
2)遠隔授業による臨地実習の動画・模擬事例等	2020年4月～ 2021年9月	模擬カルテや事例、模擬病室での看護ケア場面等のオリジナル動画を作成した。
3.教育上の能力に関する大学等の評価		
1)全学共通科目「社会の中の看護」	2006～2015年度	学生評価で5点中常時4点台を維持した。
2)医療支援技術	2019～2020年度	学生評価授業満足度は約90%であった。
3)在宅看護学概論	2021～2022年度	全評価項目が５点中4点以上であった。
4.実務の経験を有する者についての特記事項		
1)日本看護学教育学会第22回学術集会・交流セッション講師	2012年8月	テーマ「教育と臨床看護師との協働による教育システムの構築」を発表した。
2)第44回日本看護学会-看護教育-学術集会シンポジスト	2013年10月	テーマ「中堅看護師のキャリ発達支援実践例からの提案」のシンポジストとして臨床看護師路の協働を報告した
3)医学部付属病院「実地指導者研修」講師	2016年3月	実施指導者養成目的の看護部主催研修会に於いて「教育の基本的知識、指導ｽｷﾙ学生の気質について」を講義した。
5.その他		
日本看護学教育評価機構「評価員基礎研修」受講	2019年9月	評価員として登録
日本看護学教育評価機構　2022年度評価員	2022.4.～2024.3	評価担当

	年　月　日	概　　　　要
1.資格、免許 等		
1)看護婦免許	1979年5月取得	
2)保健婦免許	1979年5月取得	
3)受胎調節実施指導員	1985年4月取得	
4)労働安全衛生管理者	2008年4月取得	
2.所属学会		
日本看護科学学会	2000年4月より	
日本看護研究学会	2001年6月より	
日本在宅ケア学会	2005年1月より	
日本看護学教育学会	2010年5月より	
日本看護歴史学会	2012年2月より	
日本医史学会	2017年9月より	
3.実務の経験を有する者についての特記事項		
1)式会社タナックと基礎看護学分野の共同研究「看護技術シミユレーターの開発」	2011年4月～ 2016年3月	既成のシミュレーターではなくより確実に看護技術を修得できるよう人体に近いシミュレーターを企業と共同開発した。

（様式２）

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　　要
（学術論文） 訪問看護師対象の感染管理に関する在宅人工呼吸器研修会への参加効果	共著	2011年1月	日本環境感染学会誌 Ｖol.26（１） p.41-48	「感染管理に関する在宅人工呼吸器研修会」の学習効果を検証した結果、全体の修得度は事前習得度3.1点から修得度4.1点に上昇、項目別修得度は全項目にて事後に上昇し、研修会は学習目標達成に効果があった。一方、事前・事後の項目別修得状況で［変化なし」の割合が高かった項目も見られ今後は研修内容・方法を検討する必要性が示唆されたことをまとめた。 共著者：小松妙子、前田修子、滝内隆子
Current status of long-term indwelling urinary catheter management by visiting nurses	共著	2013年3月	International Jounal of Urological Nursing Vol.17 (2) p.76-84	訪問看護利用の長期膀胱留置ｶﾃｰﾃﾙ留置者の状況と訪問看護師のｶﾃｰﾃﾙ管理状況を明らかにする目的で6か月以上のｶﾃｰﾃﾙ留置者の訪問看護経験がある訪問看護師に質問紙調査を行った。結果、ｶﾃｰﾃﾙ留置期間は平均4.3年、留置理由は尿閉が最も多く、訪問看護師による観察は尿量・尿混濁の有無等、指導は尿の廃液方法、尿の性状観察を全員が実施していたことを報告した。 共著者：前田修子、滝内隆子、 小松妙子、河野由美子、久司一葉
臨床看護師との協働による看護技術教育の学生による評価	共著	2014年1月	岐阜看護研究会誌 Ｎo６　January p43-51	2年次生対象に、臨床看護師との協働による基礎看護技術教育の評価について質問紙調査を行った結果、臨床での看護技術の適用場面や患者への配慮への理解に関する項目は、いずれも90%以上の高い肯定的回答であった。一方、約6割は教員と臨床看護師との指導内容の違いに迷いがあると回答しており、臨床看護師との協働の在り方の課題が示唆されたこと等をまとめた。 共著者：竹下美恵子、滝内隆子 小松妙子、岡本千尋，渡邉郁子
養護教諭の職務内容に関するPHW・厚生省とCIE・文部省における検討内容	共著	2020年3月	日本医史学雑誌 Vol66,Nol, p59-73	1945年から1951年の占領期に、PHW・厚生省とCIE・文部省が養護教諭の職務内容について検討した内容を明らかにする目的で、国立国会図書館所蔵のGHQ/SCAP関連文書と日本の厚生省・文部省作成規則等を照合、史実を確認・検討した。結果、CIE・文部省は、PHW・厚生省の意見を踏まえ米国の学校保健とスクールナース制度を参考に職務内容を「学校保健事業遂行の援助」等16項目を規定していたことを報告した。 共著者：滝内隆子、小松妙子
学生の能動的学修及び思考・判断の自己表現を促す看護技術教育の検討	共著	2020年3月	秀明大学看護学部紀要 Vo2,Ｎo1,p35-44	学生の能動的学修への動機付けと継続、及び思考・判断の自己表現力を高める協同学習を目的に生活援助技術教育を実践した。教育目標達成状況把握と授業改善への示唆を得るため質問紙調査を行った。結果、能動的学修への動機付け・継続では、ARCS-V動機付けモデルにおける「牽連性」・「自信」を高める教育方法、学生がやりがいを感じる自己学修課題の設定等、授業改善の方向性が示唆された。 共著者：小松妙子、村中陽子、稲野辺奈緒子、他3名